
左胸に散る花

鈴木さら

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

左胸に散る花

【Nコード】

N4710E

【作者名】

鈴木さら

【あらすじ】

若くして不慮の死を迎えた両神椿は、閻魔大王からある役目を与えられる事になる。それは、彼にとって永い「死」の始まりだった。

第一話

五分だけ待ってくれ。
五分だけでいいんだ。

鼓膜がおかしくなりそうな銅鑼の音が響いて、
「次！」としわがれた声が言う。

僕の腕をがっちりと掴んだ手は、尖った真つ黒い爪が生えていて、
青　　比喻ではなく本当に青い。その手の先には、人間に似た、し
かし人間ではない身体がくっついていて。童話や昔話で見た、それ
は、『鬼』だ。

額には、左右に二本ずつ、四つの角。逆さ向きに生えている牙が
嘘のように白い。

真つ黒い布がばさりとほんの一瞬翻る。青鬼に背中を押され、つ
んのめるようにその部屋へ入った。

真つ赤な床に、執務室、と金の字で書かれている。空気がぶわり
と濃く、甘い。息を吸うと途端にむせた。

視線を上げると、その先には金とも銀ともつかない髪を床に届く
ほど長く伸ばした女性が、立派な椅子に座って傍らの机に置かれた
分厚い帳面を見ている。

魂を奪われるような美人だった。

顔立ちは、東洋的でも西洋的でもない。その間の良いところだけ
を取ったような感じがする。胸はぐっと張り出して、胴は細い。

黒地に鈍い金の刺繍がされた服に、長い髪が流水紋のような模様
を作っていた。

「両神　椿か？」

不意に、視界にさっと二つの影が飛び込んだ。

子供ほどの大きさの、

「ひ……っ」

片や牛頭。片や馬頭。吸い込んだ息が思わず悲鳴になった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4710e/>

左胸に散る花

2011年1月15日21時54分発行